

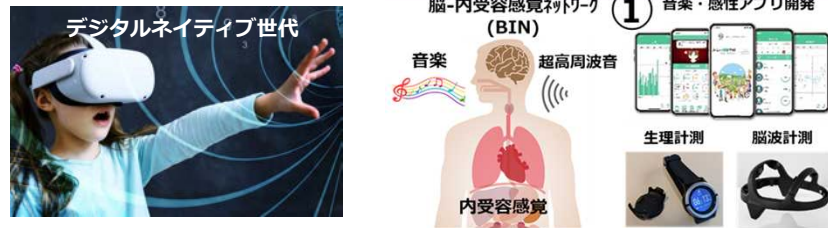
Awareness Musicによる「こころの資本」イノベーションと新リベラルアーツの創出

PM：山脇成人（2022年～31年）

1. プロジェクトのねらい

2050年のメタバース時代は実体験（身体感覚）を伴わない遊びや交流が増加し、感性の発達やこころの在り様に深刻な影響が懸念されます。本プロジェクトでは、内受容感覚（身体内部の感覚）に注目し、音楽が有する感性の気づき（Awareness Music）とポジティブ感性（こころの資本※）の最適化を脳科学的に解明し、次世代が自ら感性を育み希望に満ちてこころ豊かに活躍できる社会の実現を目指します。

※ こころの資本=イキイキと新しいことに挑戦するエネルギーに満ちた状態



音楽による個人の「こころの資本」強化と、複数人の感性の一体感や共感の可視化による感性コミュニケーション技術を開発します。音楽と感性脳科学を融合した新しいMusic Edutainmentを確立し、言語の壁を越えて共感し合い、紛争のない社会の実現に貢献するとともに、**新リベラルアーツ（総合知科学）**のモデルを創出します。

2. 研究開発プロジェクトのマイルストーン（達成目標）

- 【2024】●市民が音楽を楽しみながら研究に参加し、研究倫理などもオープンに議論する「共創の場」の構築
- 内受容感覚に基づく感性の創発メカニズムと可視化技術の心理学的・脳科学的モデルの考案と検証
- 【2026】●自己の無意識の感性の気づきを促す音楽/音Awareness Musicの創出と、ポジティブ感性を最適化する基本技術の確立
- 音楽/音を用いてストレスによるネガティブ感性（失望や自信喪失）を自身の力でポジティブ方向に最適化する音楽療法のPoCを確立
- 【2031】●次世代が自らポジティブ感性を育み、他者と共感し合える「こころの資本強化」「感性コミュニケーション」サービスの提供（育児・教育・社会が変わる）
- 音楽の脳とこころへの作用を理解し、楽しむMusic Edutainmentの提供と、総合知科学による新リベラルアーツの学術モデルの創出（芸術・娯楽・学問が変わる）

3. プロジェクトの全体構成

●プロジェクトの概念図



- ①音楽や超高周波音が脳-内受容感覚に及ぼす影響を感性の心理・生理・脳計測により感性の脳科学的モデルを考案し、感性可視化技術を開発します。
 - ②市民体験参加型の音楽ワークショップ、子育て支援教室などで感性可視化技術の実証検証を行い、オープンに研究倫理も議論して社会実装します。
 - ③簡易生体計測装置による感性の気づき可視化技術を開発し、気づきを促すAwareness Musicと個人特性に応じて自分の望む方向に感性を最適化する音楽/音によるニューロ・バイオフィードバック(NBF)技術を開発します。
 - ④③を用いて相互の感性の気づきと複数人の一体感や共感の可視化技術を開発し、遠隔でも感性が通じ合う感性コミュニケーション技術を開発します。
- ①～④により次世代が自らポジティブ感性を育み、他者と共感し合える「こころの資本」を強化し、こころ豊かに活躍できる社会の実現を目指します。

●研究開発項目及び実施体制

- 1.市民体験参加型の音楽・感性脳科学オープンサイエンス・ELSIとその実証検証・社会実装（指揮者西本智実・広島大学）
- 2.音楽による乳幼児の感性（内受容感覚）発達メカニズム解明とその社会実装（明和政子・京都大学）
- 3.音楽/超高周波音による感性の気づき促進メカニズム解明とAwareness Music創発（本田学・NCNP；高橋宏知・東京大学）
- 4.脳-内受容感覚解析による感性の気づきの脳科学モデルと可視化技術、音楽NBF技術開発（笹岡貴史・広島大学；町澤まろ・広島大学）